

平成30年度

学校通信

学力特集号

平成30年11月2日

北九州市立篠崎中学校

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

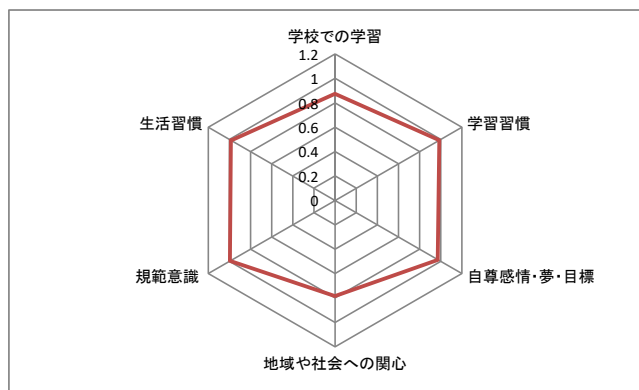
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	漢字の読みや語彙問題など全国平均を上回る問題もあったが、伝統的な言語文化と国語の特質に関する問題を苦手とする生徒が多い。	下回っている
国語B	目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などと読み分けて内容を把握することを苦手とする生徒が多い。	下回っている
数学A	数と式の分野では全国平均を上回る問題もあったが、事柄が一般的に成り立つ理由を構想を立てて説明することや、文字式や言葉を用いて解決するための見通しを立てることを苦手とする生徒が多い。	下回っている
数学B	図形分野では証明の必要性和意味についての理解を深めること、関数分野では2つの数量の関係から関数関係を見出し、関数を導くことを苦手とする生徒が多い。	下回っている
理科	科学的な思考を問う問題や記述式の問題を苦手とする生徒が多い。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「将来の夢や目標を持っていますか」「理科の授業内容はよくわかりますか」については全国平均を上回っている。これは教師が積極的に生徒と話す時間を確保して、互いの関係が良好であることあらわしている。
・「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の割合が低い。また「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の割合がかなり低いので、改善が必要であると考えられる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・1単元の授業の中で、「話し合う活動」を積極的に取り入れ、生徒が自分の意見を発表することができること、またそれを受容することができる学級づくりを目指す。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学習面では、全学年統一した「自学習ノート」の作成の検討、家庭学習を定着させるための取組、また、総合的な学習において、地域人材を生かした交流活動を積極的に行う。

